

第3回 見附市立学校配置等検討委員会

令和6年7月29日（月）
見附市役所 4階 大会議室

本日のグループ協議

班編制 4or5人一組×4組≒18人 +市教委職員各1名配置

◎ 本日の中心テーマ

諮問理由である、「**見附市立小中学校の目指すべき教育環境を整備し、充実した学校教育の実現に資するため**」の諮問事項「**見附市における市立小中学校の適正規模・適正配置等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策**」の検討課題を探る。

具体的には、「**現状のどんなことをよし**」とするか?」の視点に留意し、各委員の**問題意識の所在**と、

その解決のための方策（アイデア・手立て）について、作業シート（別紙）を活用し、ファシリテーションによるグループ協議を進める。

<留意点>

各委員の問題意識の所在と、その解決のための方策（アイデア・手立て）が、どちらの校種（小学校・中学校）を意図しているかがわかるように、作業シートに明示する。

1

<検討委員会に託されている諮問理由>

<諮問理由>・

・市の児童生徒数は、ピーク時である昭和・57・年(1982)度の・6,194・人から、令和・5・年(2023)度では・2,813・人と、およそ・40・年間で半数以下(△54.6%)にまで減少しています。・

また今後の年少人口推計は令和・2・年から・10・年間でさらに約・2・割強、30・年間で約・5・割弱の減少という急激な**少子化**が見込まれています。・

・学校教育では、児童生徒が集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し、切磋琢磨しながら児童生徒一人ひとりが資質、能力を伸ばしていくことが重要であり、その一方で、**児童生徒一人ひとりの多様性に対応できる教育環境づくり**も重要です。・

これらの状況を踏まえ、今後の教育環境の変化等も考慮しながら、教育活動のより一層の活性化を目指し、見附市の子どもたちにとって目指すべき教育環境を実現するため、将来を見据えた市立小中学校の適正規模・適正配置等の考え方と実現に向けた方策について、答申いただきますようお願い申し上げます。・

・

・

2

「見附市のよさ」が優先

横軸： 児童生徒の多様性に対応できる教育環境

縦軸： 児童生徒にとって公平で良好な教育環境

地域事情・学校事情が優先

子どもの活動が優先

社会の環境変化への対応が優先

3

視点設定

<横視点> 主体者である児童生徒の、多様性に対応できる教育環境
(地域・学校事情が優先 VS 子どもの活躍優先)

→ 「教育効果（活性化を含む）を生む適正規模・適正配置等の考え方」を見つける。

<留意点と視座>

適正配置を進めるにあたっては、小規模校は統合を基本に、
大規模校は分離新設や通学区域の変更、増築などで対応することが多い。
ただし、それぞれの学校事情、地域事情により合意形成ができることが必須。

4

視点設定

<縦視点> (将来を見据えた) 公教育を行う上で、

児童生徒にとって公平で良好な教育環境 (IT活用、いじめ不登校対策等、今日的教育課題等に対応した構想)

→ (「見附市のよさ」 が優先 VS 地域・学校を含む環境変化が優先)

→ 「教育効果 (活性化を含む) を生む適正規模・適正配置等の考え方」を見つける。

<留意点と視座>

公教育を行う上で、子どもたちにとって公平で良好な教育環境を創ること

＊ 適正規模についての考え方

子どもたちは、ある程度の人数がいて、多様で豊かな人間関係が経験できる活気ある環境の中で切磋琢磨し、未来に向かって互いに成長していくことが望ましい。

また、学校規模によるいろいろなメリット・デメリットを「教育環境」「指導体制」「学校運営」の3つの視点から検討し、子どもたちにとって望ましい教育環境となるように小中学校の適正規模を見直す必要がある。

5

< 参考 >

< 教育環境の視点 >

・学校内で環境の変化を創り出し、さまざまな経験ができるよう、クラス替えが可能な学校の規模

・子どもたちが競い合いながら成長できる規模、子どもたちも教員も互いの顔がわかり信頼関係をつくれる規模

< 指導体制の視点 >

・教員間で授業づくりの共同研究ができる規模

・中学校では、すべての教科専門の教員が配置できる規模

・子どもと教員が向き合い、個々の子どもをよく理解できる規模

< 学校運営の視点 >

・保護者の負担が過大にならず、教員の出張や研修をサポートできる規模

・特別教室の割り当てが無理なくできる規模

6

グループ協議の進め方 (75 min)

0 各グループのファシリテーターは、各事務局員が担当する。

- 1 問題意識の所在について、各自が自分の考えを付箋に書く。(一枚に一問題意識。) 10min
- 2 自己紹介と、各自が自分の問題意識の所在を発表し合う。発表し終わった委員から順に、作業シートに付箋を貼る。(縦軸・横軸のどこに位置すると思うかは各自の判断でよい。) 40min
また、各委員の発表内容についての質疑・意見交換も可。
- 3 各グループのファシリテーターを中心に、付箋の分布状況(傾向性等)を話題に、分類整理します。 20min
- 4 グループワークの参加感想 (一人1分以内) 5min

<結果発表>の進め方 (35 min)

<結果発表> 各グループ協議の結果について、グループ間で発表し合い、さらに課題と方策を整理していきましょう。

- 1 発表者(グループ代表:選出)による発表。(発表は各グループ4分以内) 20min
 - ・ 発表者はグループ協議を記録した拡大作業シートを提示し、説明する。(提示補助:各事務局関係者)
 - ・ 対象校種、課題ととらえたこと、その要因として考えられること、そのための解決の方策(アイディア・手立て)を骨子として発表する。
 - ・ 補足したいこと(留意すべきこと、配慮すべきこと等)がある場合は、各グループ内の委員が補足する。
- 2 全体質疑と意見交換(時間調整の場合あり) 10min
- 3 ファシリテーターのふりかえり (遠藤) 5min

「見附市のよさ」が優先

横軸： 児童生徒の多様性に対応できる教育環境

縦軸： 児童生徒にとって公平で良好な教育環境

地域事情・学校事情が優先

子どもの活動が優先

社会の環境変化への対応が優先

< 構想 > 次回への見通し

- 第4回は、第3回のメンバーを入れ替えた新規のグループで協議を重ねる。
(次回 9月 日)
- 小・中学校別に見出した検討課題について、
その対応策（実現に向けた方策）を協議する。
- その対応策については、以後の検討委員会内協議で話題にする
『実現可能性のある選択肢』として位置付ける。